

明倫短期大学教授就任特別講演

明倫短期大学における歯科口腔介護教育とこれからの展望

講師 江川 広子 先生

(明倫短期大学 歯科衛生士学科教授・口腔保健衛生学専攻科長)

高齢社会が急速に進み、障害をかかえる高齢者や認知症、虚弱者（以下、要介護者等）など介護を必要とする高齢者は増加の一途をたどっている。

1997（平成9）年、明倫短期大学開学と同時に歯科衛生士学科では介護の必須条件であるケアマネジメント手法（MDS-HC：在宅ケアアセスメントマニュアル）を取り入れ「歯科口腔介護・演習」をカリキュラムに導入した。この歯科口腔介護教育は、全国歯科衛生士養成機関において、初めての取り組みであり、適当なテキストもなく学問体系も確立されていなかったことから、本学独自に整理、体系化してシラバスを作成した。作成にあたっては、日本が高齢社会に突入し、歯科口腔介護の果たすべき役割を広い見地からみることを念頭においた。

歯科口腔介護教育開始から19年を経過したが、その間、今まで本学が取り組んできたその教育・手法を歯科衛生士専任教員研修会ならびに歯科医学教育学会、老年歯科医学会等で発表し、各方面の先生方より示唆を得て発展させてきた。また、歯科衛生士教育現場では新設の本教科に関心が向けられた。

歯科口腔介護を実施するためには、科学的根拠に基づいた手法とそのため器材が必要となるが、2001（平成13）年、科学研究費の採択を受けて、効率よく効果的かつ安全で簡便な種々の介護器材の開発に至った。

超高齢社会において、要介護者等に対応していくために、「介護予防と口腔機能の向上」、「誤嚥性肺炎予防」、「摂食嚥下リハビリテーション」、「周術期口腔機能管理」、「低栄養・フレイル・サルコペニア・ロコモへの予防」、「歯科訪問診療」等、医科歯科医療連携が必要であり、その原点は歯科口腔介護であると考える。

歯科衛生士教育の目指すものは、口腔保健管理の専門職として必要な保健・医療・福祉の知識と技能を習得させ、全身的管理能力を兼ね備えた医療人を育成して、社会に貢献していくことであると考える。

【江川広子 先生 ご略歴】

- ・明倫短期大学歯科衛生士学科 教授
- ・歯友歯科高等専修学校歯科衛生士科 卒業
- ・新潟大学大学院医歯学総合研究科 博士課程修了

【社会活動】

- ・日本歯科衛生士会代議員
- ・新潟県歯科衛生士会副会長
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員

学会認定士

- ・日本咀嚼学会理事 健康咀嚼指導士
- ・歯友会居宅介護支援センター介護支援専門員 非常勤
- ・新潟市介護保険認定調査員
- ・訪問介護員（ヘルパー1級）実技指導員

【著書】

＜医歯薬出版＞

- ・「歯科衛生士のための歯科介護 第3版」
- ・「歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション」
- ・「歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」
- ・「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」

＜口腔保健協会＞

- ・「インシデントの事例と対策～歯科衛生士のヒヤリ・ハット～」